

10万人の

## ギャラリー

下粕尾にお住まいの根本ヒロ子さんの押し絵作品「美人画」を紹介します。

根本さんが押し絵を始めたのは、15年前のことです。千葉県野田市に住む先生の押し絵の作品を見て、自分でも作品を作ってみたくなり、お願いして、教室を開いてもらいました。



▶根本ヒロ子さんの押し絵作品  
「美人画」

先生には、月に2回、野田市から下粕尾の教室まで来てもらい、午前9時から午後3時くらいまで熱心に教えてもらったそうです。

作品を作るには、題材を決めてそれに合った和紙を探し求めなければなりません。時には、先生と東京の間屋へ行つて買ってきます。その後、型紙を作り、綿を和紙で

くるんで厚みを出し、ふっくらとした感じと奥行きを出してボンドでつけて作っていきます。

この作品は、顔を描くのにも何度か挑戦して、納得のいく表情に仕上げました。3か月かけて完成させ、先生が褒めてくれた時はうれしくて感動したそうです。現在は、先生の教室は終わりましたが、自分のペースで作品作りを続けています。

## ★作品募集★

10万人のギャラリーの作品を募集しています。絵画、工芸、木版画などみなさんの力作をお寄せください。問い合わせ先 広報広聴係

☎(0289)2128

## 作品介绍 129

## 川上澄生の世界

当館では、9月5日から「川上澄生 ガラス絵と肉筆 一絵筆から生まれるもの」展を開催します。この展覧会では、澄生の貴重なガラス絵、肉筆（筆で描かれたもの）をご紹介します。

この作品は肉筆画で、澄生が絹製の帯に油絵具で南蛮船を描き義妹に送ったものです。鮮やかな一言に尽きます。雲の彩り、旗の翻り、波のうねりがとても大胆で画面全体にリズムがあります。一方で南蛮船の本体は驚くほど細かく、デッキに集まる小さな南蛮人の表

情まで、迷いなく描きこまれていきます。肉筆は木版画ほどモチーフの省略を必要としません。そのため、このような大胆さと繊細さを兼ね備えた作品が完成したのです。

澄生は、相当数の肉筆を制作しましたが、親しい人たちへ送るために描いたものが大半で、目にする機会はほとんどありません。世界に1つだけの作品。当館でぜひご覧ください。

学芸員 原田敏行



本作品は9月5日から二階展示室で開催する「川上澄生 ガラス絵と肉筆一絵筆から生まれるもの」展に出品します。

## 川上澄生美術館からのお知らせ

問い合わせ ☎(0289)2128

1階展示ホールでは「地域の作家 森谷哲夫・山崎丈夫 展」を同時開催します。

## 「南蛮船」一九四三年（昭和一八）

油彩 絹本

（画面寸法 縦42.7×横30.8cm）